

道徳のかけ橋

令和2年2月20日発行
第 2 2 号
福島県教育庁課
義務教育課

特別支援学級における道徳科の授業づくり

特別支援学級での道徳科について多くの先生方や学校が、「子どもの実態に合った授業を行いたい。」という願いをもっています。そこで、本号では、子どもの姿を出発点にした特別支援学級（知的障がい）の授業実践を紹介しします。

一人一人が活かされる授業づくりは、全ての子どもたちが学びやすい、ユニバーサルデザインによる授業づくりです。小、中、特別支援学校、全ての先生方の参考にしていただきたいと思います。

福島市立北沢又小学校 さくら1組（1～3年5名）の授業実践 〈指導者：関口由紀教諭〉

主題名 やさしくすると… 【B－（6）親切、思いやり】

ねらい 親切にしたときの気持ちについて体験的に考えることを通して、他者に優しくすると自分も相手も気持ちがよくなることに気づき、身近にいる人に進んで親切にしようとする心情を育てる。

教材 「はしのうえのおおかみ」（「わたしたちの道徳1・2年」文部科学省）
※ 福島県教育委員会オリジナル紙芝居（画：福島県立福島西高等学校 デザイン科学科3年 小林美歩さん）



こんな子どもたちの姿から授業をつくりました！！



- A 集中力を持続させることがむずかしい。
- B 気持ちを考えること、言葉で表現することが苦手。
- C 一人一人の特性に応じた指導をきめ細やかに行う必要がある。

【学習の概要】

- 1 他者に優しくできていないオオカミの姿から、本時の学びの視点をもつ。
(1) 橋でウサギを追い返した時のオオカミの気持ちを色で考える。

やさしくすると どんなきもちになるのかな？

- 2 優しくされたり、優しくしたりするオオカミの姿から考える。
(1) 橋でクマに渡してもらったオオカミの気持ちを考える。
(2) 橋でウサギを抱き上げて渡してあげた時のオオカミの気持ちを色で考え、役割演技で確かめる。
- 3 自分はオオカミに似ているときがあるか考える。

A 導入から終末まで、教材「はしのうえのおおかみ」とつながりながら発問をし、子どもが考えやすいようにしました。

【板書】



学びのノートとして、わかりやすく示しました。
可視化された全員の考えを掲示し、多面的・多角的に考えたり、考えの変化に気づいたりさせました。



◆◆◆ 授業の実際 ◆◆◆



A

紙芝居を活用することで、効果的な演出を工夫したり、紙芝居を共通の手がかりにして、話の内容や状況を確認したりしました。

◇ 紙芝居による演出 ◇

- ① 話の内容に合わせてながら、前の紙面を動かし臨場感をもたせた。
- ② 登場人物の動きに合わせて、紙芝居を動かして、場面のイメージを膨らませた。(クマがオオカミを、オオカミがウサギを抱きかかえて橋を渡る場面など)

T : (紙芝居を読んでいる途中で) 一本橋って、わかる？
C1 : あの細い丸太でしょ。
T : そうだね。ここの川にかかっている、この木の橋です。

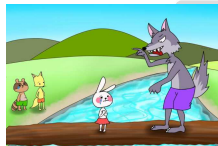
T : このとき、オオカミの顔はどんな顔？
C4 : おこってる。
C2 : いばってる。

場面毎に子どもたちの反応を確かめながら、読み進めました。子どもたちは、紙芝居を指さしたり、紙芝居を見比べたりして考える様子が見られました。



B

色によって表すことで、言葉による表現が苦手な部分を補ったり、その色にした理由からオオカミの心の様子を考えやすくしたりしました。



オオカミが渡ってきて、怖い顔で怒鳴りました。「こらこら、もどれもどれ。」

T : このときのオオカミの気持ちはどんなかな？
C2 : (水色のハート型色紙を合わせて…) ちがうな。(群青色を合わせて…) これだな。
C : (5人全員がオオカミの気持ちの色を決める。)
T : C3さんは、どうしてこの色(黒)にしたの？
C3 : ひとりぼっちだと思って…。友達がいない。
C4 : (C4も同じく黒) オオカミは怒っているから黒。
T : どうして怒っているんだろうね？
C4 : 怖いから。ひとりぼっちで、悲しい。



ハート型の色紙を何色も準備しておきました。子どもたちは、ワークシートの上に色紙をおいて自分の考えに合うかどうかを確かめながら考えていました。



オオカミはウサギを抱き上げ、後ろにそっとおろしてあげました。

T : 前のオオカミと違うところはあるかな？
C : (子どもたち5人全員大きくうなずく)(全員、折り紙を使って色を探す。)
T : なんか、みんな色が変わったね。どうしてこの色になったの？
C1 : (ピンク) オオカミは、うれしいから。ウサギと仲良くなれたから。
C5 : (赤) いい気持ちになったから、黒から赤になった。
C2 : (黄緑) 友達になってみんなやさしくなった。オオカミと仲良くなって、オオカミの家に行って、ご飯を食べたかもしれない。
T : オオカミはやさしくなったの？
C : (全員大きくうなずく)
T : やさしい気持ちになると、心はこんなきれいな色になるんだね。
T : このときのオオカミをやってみよう。(役割演技をしたり、見たりする。)

選んだ色を根拠にして、自分の考えを話す姿が見られました。また、全員の考えが黒板に示され、優しいオオカミの心の様子を前のオオカミと比べたり、優しくするときの心の様子のとらえ方が、一人一人違うことに気付いたりしていました。



C

一人一人の特性に応じて、問いかけや働きかけを行いました。

- 気持ちを考えることが比較的得意なC1、C4児～はじめに発表させることで、他の子どもの手がかりにさせました。また、C1、C4児に対して問い返しを行って、考えを深めさせました。
- 反応が少ないC3児～名前を呼びながら個人的に問いかけを行うようにしました。
- 描材(クレヨン)で遊んでしまいそうなC6児～始めからハート型色紙を提示するよう計画しました。(当日は、C6児は欠席。授業では、最終的に全員がハート型色紙で考えていた。)



A

授業後の活動を通して、子どもたちの学びを持続させました。

- 授業後の活動も含めて45分間を計画することで、遊びや自由なやりとりの中で道徳の学びを持続させるよう計画しました。

【想定していた活動】

一本橋のごっこ遊び、紙芝居、動物のお絵かき



授業後に、紙芝居を読んだり聞いたりする児童

授業中から紙芝居に興味津々だったC2が、「ぼくが読むよ。」と読み始めました。それを見る児童は、動物の表情などを改めて確認していました。

